議事（4）現計画の目標指標達成度評価について

I委員 N o 2 3の要因「本に対するニーズの低下」を「本に対するニーズの減少」に修正すべき。

議事（5）防府市の教育の状況

L委員 教育のまち日本一を目指しているが、学力は低い状況になっている。何を目標にして日本一を目指しているのかわからない。学力向上を目指す取り組みが必要ではないか。

不登校の児童生徒に対する取り組みはどのようなものがあるのか。

事務局 教育のまち日本一は、数値的なものを挙げて日本一というのではなく、より高みを目指すという教育風土が日本一という意味。教育風土的にはどこにも負けないという気持ちを持って教育にあたっていく。

不登校への対応は、家庭訪問、電話連絡等をして保護者と連絡を取っている。

オアシス教室での対応、在宅支援員による家庭訪問等を行い学習のケアも行っている。

佐波中学校が不登校を減らすという取組の指定を受けているので、その取り組みを活かしながら防府全体で取組を進めていきたい。

学力について、全国平均から見ると横並びのところに山口県、防府市があるということで、満足しているわけではない。やや下がっている部分については、個別に課題があるため、それぞれに応じた指導をしている。

K委員 図書館利用状況について、登録者数は増えているが、入館者数は減っているのはどうということか。

小学生低学年は親が連れて行かなくてはいけないが、駐車場の問題がある。

事務局 スマホが普及し、本離れが進んでいるのではないかとと思われる。1人当たりの貸出数も減少している。駐車場入り口に図書館のサインが無いという指摘は頂いているので、現在検討中で、利用しやすい図書館にしていきたい。

I委員 登録者数は累積で、貸出者数は年度ごとになっている。

K委員 駐車場の無料時間は1時間となっていて、子供たちを連れて行ったときに1時間では本を選ぶのが難しい。市営駐車場もあるので何とかならないのか。

H委員 豊かな心「自分には良いところがあると思う」「将来の夢や希望を持っている」について、そういうことについて授業で行っていることが何かあるのか。「将来の夢や希望を持っている」について、小学生は全国を上回っているが、中学生は減っている。その理由は。

事務局 学級での役割、学校での役割、生徒会活動等を通じてそれぞれの役割を持たせ、自主性や主体性を育てて、それぞれの持ち場で、それぞれのやるべきことを発揮し、その中で自分の良さを見つけていくという教育活動を行っている。しかし、まだ自信が持っていない部分もあり、将来に向けて夢を持てる状況になっていないということが数字に表れているのではないか。中学校では職場体験を通じて将来について考える機会を設けているが、楽観的な数字にはなっていない。引続きこの教育活動を行っていくことが大切である。

「将来の夢や希望を持っている」について、中学校で全国を下回っている要因は、将来こういう風になりたいというものを持っているものの、方向転換もしなければならぬような現実も見えてくる子供もいるのではないか。新たな夢や希望を持つことも大事なのではないか。

J 委員 いじめの認知率について、全国の動向と違って、小学校は減少、中学校は増加しているのはどういう状況か。

事務局 各学校では週1回アンケートを行っていじめの把握を行い、学校として対応をしていく。

今も継続指導している事案もあり、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、子育て支援課、関係機関と連携をとって指導している。

大事なことは被害を受けた子供が、もう大丈夫という状態になるまで指導し、見守ることだと思っている。

認知率の動向については、その時その時の状況も違うため、分析しづらい。

B 委員 学校では、いじめの根絶と同時に、小さいいじめの芽も完全掌握することが大切である。

感度を上げていじめを見つけていくことが重要なことで、そのためには、どういう調査が必要で、生徒とどういう人間関係を築いていくのが大切である。そうすると認知率は上がってくるものである。

議事（6）計画骨子（目次）案について

議事（7）計画の基本的な考え方について

J 委員 基本目標について、変化が激しくグローバル化する社会においては、他の国の人も含めて他者と協働していくこと、相互に理解しあいながら学んでいくことが大切なことで、これをもう1つの柱にすべき。

F 委員 「安全教育の推進」は「地域防災教育」と名称を変更して取り組む必要があるのではないか。

「健康教育の推進」「安全・安心な学校給食の推進」で項目が分かれているが、健康教育の推進の中では、食に関する指導という取組が入っている。安全・安心な学校給食の推進の中には、食物アレルギーへの対応という取組が入っている。どういふ範疇で分けているのか熟考が必要ではないか。

「特別支援教育の充実」について、特別支援教育を必要とする子供が5年間で倍になっている。この実態を踏まえるならば、具体的な行政施策として考える段階にきているのではないか。

H 委員 教育のまち日本一の四角囲みの中、教育の発展に貢献された先人の方々であれば、上山満之進もおられます。

D 委員 子どもたちはゲームなどをする時間が多く、対話する機会が減っている。人と人が関わるのがこれから重要となってくるのではないか。

E 委員 ICT教育の推進で1人1台のタブレット配付が予定されているが、小野などの周辺部でも市街地と変わらない平等な環境で進むようにしてほしい。

A 委員 発達段階に応じて幼・保・小・中・高で連携した教育を推進すれば、ふるさとを愛する子どもを育てることができ、未来へつなぐことができる。

C 委員 リアルな関りとICT環境の整備をうまくリンクさせ、新たな繋がりを構築させると良い。逆風をプラスに転じて、システムが構築されれば、教育の質が向上するのではないか。

H 委員 地域防災が重要で、コミュニティを強くする必要がある。

J 委員 教科書の採択にあたっては、慎重に行なって欲しいという意見を持っているので、教科書選定委員に伝えていただきたい。